

ベトナム語は全く知りません。誤りがあれば、訂正して下さい。

欄外には、漢字の音読みを旧仮名使いで示してあります。新仮名使いでは“方”と“法”がどちらも“ほう”になってしまうなど、比較の意味をなさないからです。ベトナム語と一番対応がつきそうな読み方を選んでいますが、呉音を漢音より優先するなどの配慮は全く行なっていませんので、資料的価値はありません。慣用音を選んだところさえあります。

1 Quốc ngữ (國語)

現在、ベトナム語の表記に使われているのは、quốc ngữ と呼ばれる、ラテンアルファベットを用いる表音表記である。ヨーロッパ起源の言葉などの例外を除き、音節毎に区切って書かれる。

使われるのは AĂÂBCDĐÊËGHJKLMNOÔPQRSTUÚVXY の29文字だが、このうちの母音には声調記号がつく。重母音を含む音節では声調記号のつく位置は(特に手書き文字では)必ずしも一定していないらしく、辞書を索くのにも苦労する。

2 Nôm (喃)

過去のベトナム語の表記では nôm と呼ばれる、文字体系が使われていた。これは中国から伝わった文字 hán nôm とベトナム人が独自につくり出した文字 chữ nôm を組み合わせて使うものである。

2.1 Hán Nôm (漢喃)

これには3種類の使われ方がある。

- 日本語の語彙の6割程度が漢語または、和声漢語であるのと同様に、ベトナム語の語彙の8割程度が中国から伝わった言葉をベトナム語独自の語順で組み合わせたものである。古い時代に伝わった言葉の中にはベトナム語の話者にはベトナム語固有の言葉と感じられるものもあるようだが、これも、例えば、日本語で“馬”、“梅”などが本来は音読み、つまりは外来語であるのに、現在では一般に訓読みとして扱われるのと同様な現象だろう。こう言った言葉は当然 hán nôm、つまりは漢字で表記できる。

- “長方形”のことをベトナム語では “hình chữ nhật” と言う。各々の単語は漢越同源辞、つまりは中国から伝わった言葉で、“形”、“字”、“日”と漢字で表記できる。

けい し にち
形 字 日

- “正三角形”のことをベトナム語では “(hình) tam giác đều” と言う。“tam giác” と “đều” は漢越同源辞で、各々“三角”、“調”と漢字で表記できる。

さん かく てう
三 角 調

- “数学的帰納法”のことをベトナム語では “phương pháp quy nạp toán học” と言う。“phương pháp” は“方法”、“quy nạp” は“帰納”、“toán” は“算”、“học” は“學”と漢字で表記できる。

ほう はふ き なふ さん
方 法 歸 納 算
か く 學

- ヴェトナム語固有の言葉を表記するのに、意味には無関係に、発音の良く似た漢字を使うことがある。万葉仮名や宛て字の類のものだろう。しかし、漢字と言うのは、本来、音が通じれば、意味も通じてくるもので、あながち荒唐無稽な使用法とも言えない。また、一見宛て字に見える表記も、実は結果として漢字と形が一致してしまっただけで、字喃の形声文字と解釈すべき場合も多い。

- “tiếng việt” つまり、“ヴェトナム語”を“啗越”と書く時の“啗”、同じく、“nôm”を意味する“喃”は、漢字の意味とは無関係な発音のみに基づく表記である。

しやう 暎つ なん
啗 越 喃

- “午後、夕方”を意味するヴェトナム語“chiều”は、同じ発音の漢字“朝”で表記される。

てう
朝

- “公倍数”と“公約数”はヴェトナム語では各々、“bội số chung”そして“ước số chung”と言うが、“共通の”を意味する“chung”は、その音より“終”と表記される。

ばい すう しゆう やく
倍 數 終 約

- 数学用語の“行列(matrix)”を“ma trận”と言うのは、英語とヴェトナム語の“tr”の発音の違いに目をつぶると音訳のようであるが、“trận”は歴とした漢越同源辞で、“陣”と書かれる。中国語で行列を“矩阵(矩陣)”と言うことを思い起こさせる。一方、“ma”は宛て字で“魔”と書かれる。

ま ちん
魔 陣

- ヴェトナム語固有の言葉を表記するのに、発音には無関係に、同じ意味の漢字を当てることがある。日本語の訓読みに相当するものである。

- “虚数”を表すヴェトナム語“số ảo”を nôm で表記すると“數幻”になる。“幻”には音読み“hoén”と訓読み“ảo”がある。

げん
幻

- 異体字“爲、為、为、𠂇”の発音を示すと、

ゐ
爲

| | |
|---|---------------------------------|
| 爲 | vay, vì, vĩ, vơ, vờ, vi, ví, vị |
| 為 | vì, vị |
| 为 | vì, vị |
| 𠂇 | lâm |

つまり、“𠂇”は訓読み専用文字として使われる。(“爪”の意味ではない。)初めの字体に多くの読み方があるのは、この字体が地域、時代を越えて最も良く使われてきたことを反映するものだろう。

- “狭義”、“広義”は各々“nghĩa hẹp”及び“nghĩa rộng”と言うが、“nghĩa”と“hẹp”は漢越同源辞で、“義”、“狭”と書き表せるが、“廣”を“rộng”と読むのは訓読みである。“廣”の音読みは“quảng, quảng, quảng”である。

ぎ けふ くわう
義 狭 廣

以上の区別は必ずしも厳格なものではない。

2.2 Chữ Nôm (字喃)

日本で言う、国字に当たるものだが、日本の国字の大部分が会意であるのに対し、chữ nômの殆どは形声である。例えば、“một hai ba bốn năm”をnômで表記すると“𠵼𠵼𠵼𠵼𠵼𠵼”と言ったところだが、このうち、初めの“𠵼”は発音だけを合わせた宛て字だろうが、残りは明らかに形声である。

- “nước mắm”を“𠵼𠵼”と書いた時の初めの文字は、“ひろし”と訓じ、水面が広大である意の漢字“𠵼”と同じ字形だが、実は“水”の意の、偏に意符、旁に音符を持つ形声字の字喃である。“mắm”は偏が意符、旁が音符の形声字である。“mắm”は“𠵼”とも書かれることからわかる通り、“塩漬の魚”の意。𠵼ではない。
- “最大 (maximum)”をベトナム語では“lớn nhất”と言う。ちなみに“極大 (maximal)”は“cực đại”である。“nhất”は幾分発音が変化しているが、“一”、一方、ベトナム語固有の表現“lớn”は偏に音符、旁に意符を持つ、“𠵼、𠵼”や冠に意符、脚に音符を持つ、“𠵼、𠵼、𠵼”で表される。Nôm Preservation Foundationの待ちリストには“頼”の代わりに“頼”を音符に使った形声字などや、冠に“巨”、脚に“大”を使った会意字も収録されているので、そのうち、Unicodeでも使用可能になることが期待される。
- 同様に、“最小 (minimum)”は“nhỏ nhất”、“極小 (minimal)”は“cực tiểu”である。“nhỏ”の字喃“𠵼”では、“乳”が音符、“小”が意符である。
- “傾き”を意味する“nghiêng”には宛て字“迎”があるが、Nôm Preservation Foundationのリストには偏に“傾”、旁に“迎”を持つ形声字が載っている。これに限らず、前節で宛て字として扱った文字の多くには、字喃が作られている。例えば、“声、音、言語 (tiếng)”には偏に“音”、旁に“省”を配した文字が、“午後、夕方 (chiều)”には“夜 (tối)”と対比する意味での形声字“𠵼、𠵼、𠵼”に加え、冠に“夕”、脚に“朝”を使った形声字、偏に“過”、旁に“午”を配したり、偏に“午”、旁に“下”を配した会意字がある。“共通の (chung)”にも、冠に意符“公”、脚に音符“終”を置いた文字があるが、残念ながらNôm Preservation Foundationのリストに収録されていないので、当分、Unicodeでは使用できないであろう。
- “廣”の訓読み“rộng”を既に取り上げたが、この意味では、形声字“𠵼、𠵼”もある。

𠵼

𠵼 曼

𠵼 大 一 𠵼 頼

𠵼 乳

𠵼 省

𠵼 弄

Nôm は表記方法の統一が確立していないので、かなり混乱した部分もあるが、極めて合理的なシステムである。